



西中だより

令和8年 6月16日

江東区立大島西中学校

校長 鈴木 広高

№. 4

【教育目標】 しなやかに 未来を切り拓く人

太陽よりも熱いドラマで完結した運動会

雲一つない鮮やかな五月晴れのもと、5月16日（土）、本校「第25回運動会」を盛大に開催しました。当日は予報どおりの厳しい暑さとなりましたが、校庭で繰り広げられたのは、太陽の熱さを遥かに超える、生徒たちの「熱い、熱いドラマ」でした。

中学校 学習指導要領 体育的行事

心身の健全な発達や健康の保持増進、規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。

中学校の学習指導要領が示す体育的行事の目標は、上記のことが掲げられています。今年の西中生は、これまでの練習から本番に至るまでのすべてのプロセスにおいて、この目標を高いレベルで体現してくれました。

競技では、100m走や障害物競走、各学年の趣向を凝らした学年種目が続き、会場のボルテージは一気に高まりました。さらに、全学年で実施したクラス対抗の「オールメンバーズリレー」、そして最終競技としてクラス一丸となって挑んだ「大縄跳び」では、全員が息を合わせ、心を一つにして跳び続けました。砂だらけになりながら必死にバトンをつなぐ姿、勝敗を超えてお互いを称え合い、声を枯らして仲間を応援する姿は、言葉にできないほど本当に素晴らしく、大島西中の誇りそのものでした。また、本校が大切にしている「生徒主体」の姿勢は、競技の裏側にある係活動でさらに光り輝きました。スターター、得点、用具、放送、実況、救護など、あらゆる場面で生徒たちが自ら考え、判断し、誰も見ていないところでも黙々と責任を果たす「自走する姿」に、何度も胸を打たれました。



行事の後に実施いたしました**保護者・来賓の皆様向けのアンケート**では、多くの方から「**生徒の輝く姿に感動した**」と高い評価をいただきました。また、「**すぐーる**」による当日のリアルタイムな状況配信に対しても、「**進行状況が逐一把握できて大変助かった**」とのありがたいお声をいただきました。さらに、昨年度まで課題であった保護者観覧席を今年度広げたこと、また、より近くで我が子の勇姿をご覧いただけるよう設置した学年優先シートについても、「**スムーズに参観できて良かった**」と好評を博し、学校としての工夫が実を結んだことを嬉しく受け止めております。

大変暑い中、校庭まで足を運び、温かい拍手と声援で生徒の限界を超える大きな力を引き出してくださった保護者、卒業生、地域、学校関係者の皆様方に心より御礼申し上げます。

本校はこれからも、生徒たちの「本気」と「主体性」を全力で支え、保護者・地域に愛される学校づくりを推進してまいります。本当にありがとうございました。

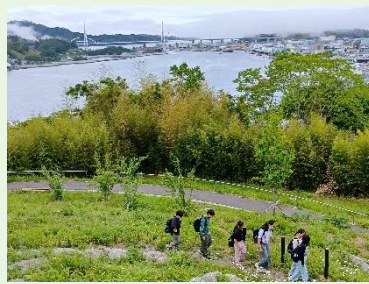
東北で命と絆・平和を学んだ、3年生修学旅行

3年生が5月27日（水）から29日（金）、東北方面へ修学旅行を実施しました。学習指導要領が掲げる「集団生活における規律や協働、公明正大な態度の育成」を、生徒たちは高い主体性で見事に体現しました。

初日は気仙沼の震災遺構を訪れ、自然の脅威と復興の歩みから命の尊さと未来の生き方を学びました。2日目は陸前高田での民泊を通じて地域の方々と温かい交流を深め、本物の家族のような強い絆を結びました。お別れの会では、東京で練習を重ねてきた合唱『群青』を披露。東北への深い感謝を乗せた歌声は現地の方々の心に深く響き渡りました。最終日は世界遺産・平泉の中尊寺などを訪れ、金色堂の奥にある平和な理想郷への祈りに触れました。

気仙沼で受け取った「命のバトン」、陸前高田で出会った「絆」、そして平泉で触れた「平和の祈り」。本校初の東北の旅は、すべての体験が一本の線で繋がり、生徒の心の中で「しなやかに未来を切り拓く力」へと昇華しました。

観光では得られない、日本の過去・現在・未来を五感で巡る極めて密度の濃い3日間。この学びを財産に、3年生のさらなる活躍が楽しみです。



逆境を最高の学びに変えた、2年生移動教室

2年生が長野・山梨方面への移動教室を6月3日（水）から5日（金）に実施しました。学習指導要領が掲げる「集団生活における規律や協働、公明正大な態度の育成」を、生徒たちは出発の瞬間から高い主体性で見事に体現しました。

初日の台風による急な昼出発への変更を保護者の皆さまとの迅速な連携で乗り越えると、2日目のウォークラリーでは道迷いのハプニングにも誰一人諦めず、地図を片手に声を掛け合い、知恵を出し合って「最高の冒険」へと変えました。

最終日は牧場で「食と命のつながり」を学びました。魚つかみ体験では、さっきまで手の中で生きていた魚を自らの手で扱い、焼いて食べるという現実と直面。「命をいただく」重みと葛藤しながらも逃げずに命と向き合い、静かに深く感謝を込めて味わう生徒たちの横顔には、精神的な逞しさが漂っていました。



すべての不測の事態をチームワークで「最高の学び」に変え、五感を通じて一回りも二回りも逞しく成長した2年生。ここで培った「自走する力」を原動力に、今後の西中を支えるさらなる活躍を期待しています。